

長年続いてきた日本の受動的・同調的な学びを
主体的・対話的で深い学びに変えるために
私たちができること

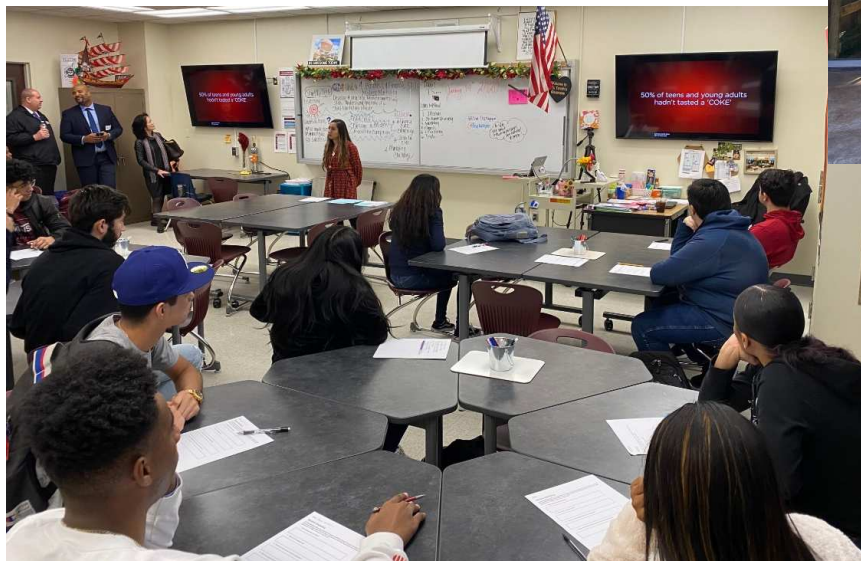
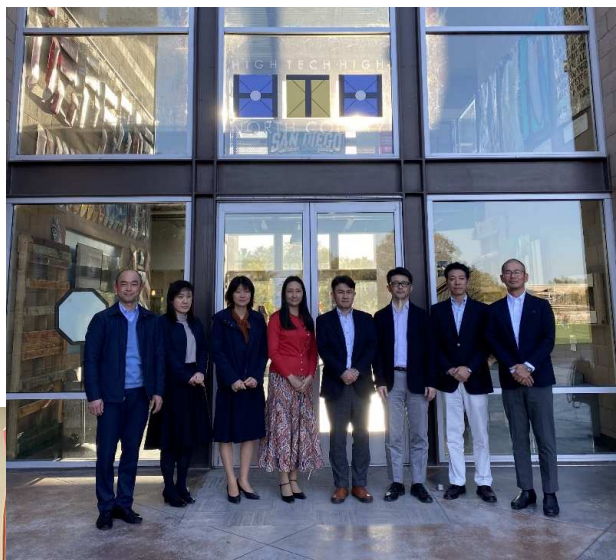
広島県教育委員会教育長
平川 理恵

本日 お話すること

- 1 商業高校のアップデート
（「ビジネス探究プログラム」の開発等）
- 2 「本質的な問い」研修
- 3 新たな公立高等学校入学者選抜

商業高校アップデート（「ビジネス探究プログラム」の開発等）

■アメリカ ビジネスハイスクール視察

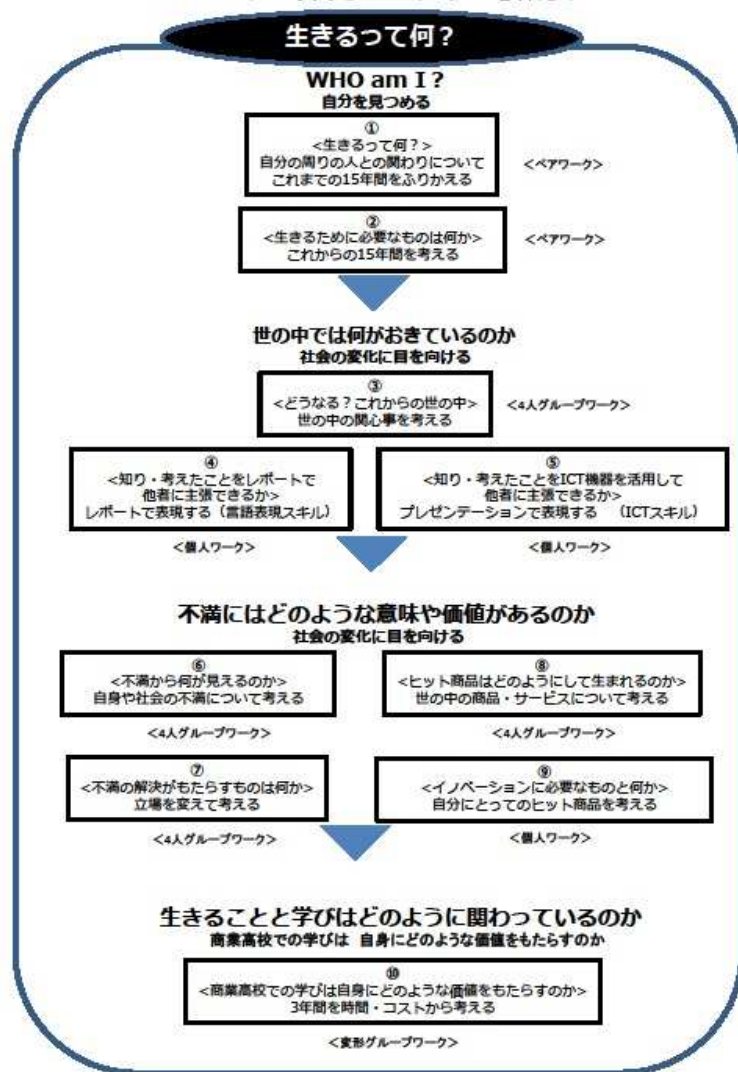


商業高校アップデート（「ビジネス探究プログラム」の開発等）



商業高校アップデート（「ビジネス探究プログラム」の開発等）

「ビジネス探究プログラム」概要



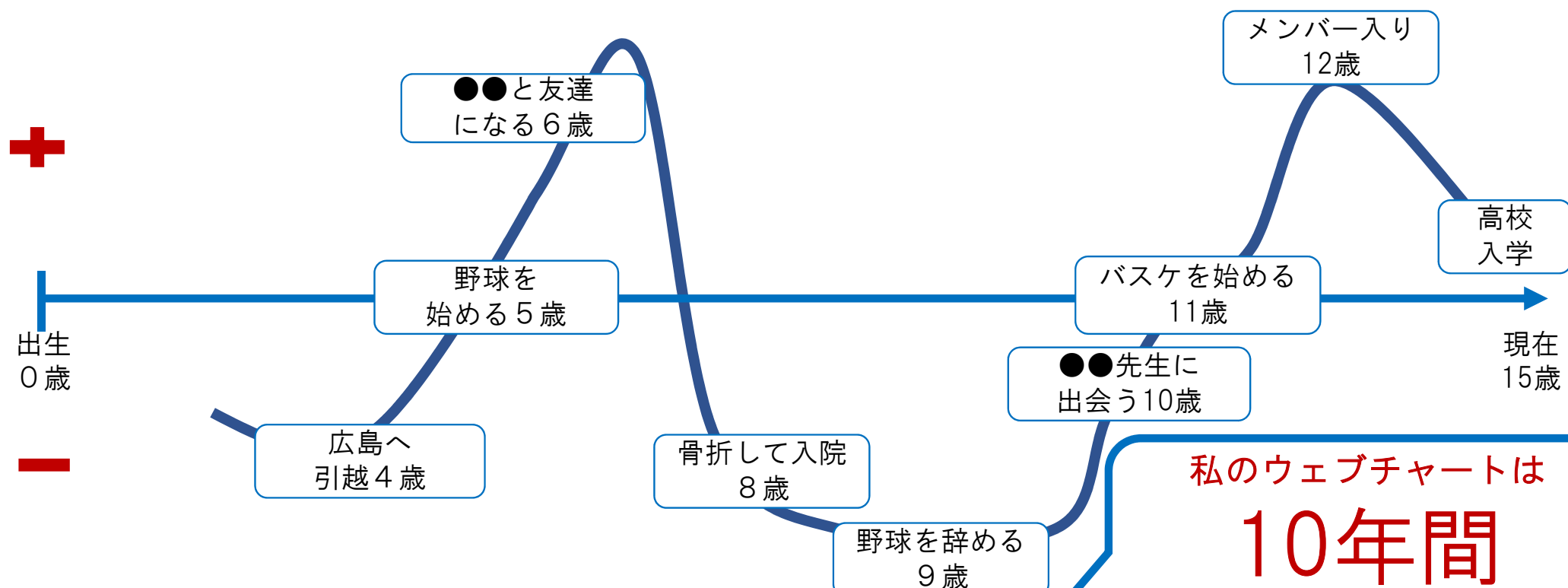
Who am I ?

Step1-1 生きるって何？

商業高校アップデート（「ビジネス探究プログラム」の開発等）

自分の人生を振り返る

● ライフウェーブチャート 事例



私は（ **5** ）歳からの記憶が鮮明である。

商業高校アップデート（「ビジネス探究プログラム」の開発等）

1-1
ワーク①

生きる

って何？

人とのコミュニケーションとる

自分のやりたいことをする。



それ以外のルールを守れば、楽しく生きていけると思った。

1-1
ワーク②

生きる

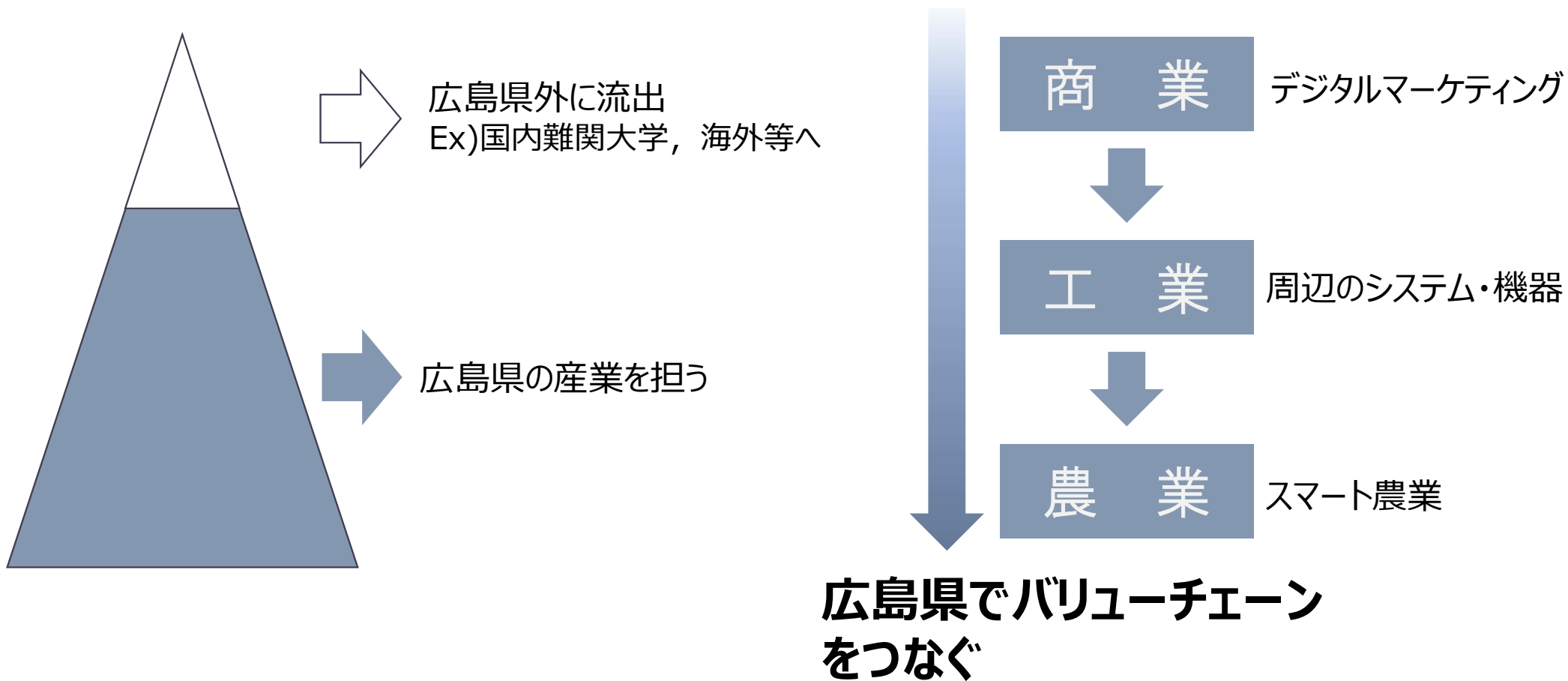
って何？Ⅱ

生きるというこは、自分自身に責任があることを自覚する必要があると思う。人との交流、関係、友達との会話であって、お互いの信頼関係が大事だと思う。人との信頼をうらまえないことを大事にすればいいと思う。そのためは、もっとお互いについて詳しく知ろう。たりすれば、信頼は細くうらまえられると思う。信頼できる仲間がいればきっと仲のいい生活が送れると思う。仲のいい友達の中で一番信頼し合えるのが親友だと思う。

1-1
ワーク③ 今日授業で感じたこと（自分の考えの変化）を書きましょう。

最初は生きること、鬼を、生きろだけだと思ったが、深く考えてみると、それ以外のルールを守れば、楽しく生きていけると思った。授業を受けて、生きることが、とても楽しかった、よく分かった。授業にたいに感謝です。

広島県でバリューチェーンをつなぐ



授業をわくわく楽しいものに変える教職員研修＝「本質的な問い」の重要性

例えば、ブルーム分類学に基づく、深い思考を促す「**本質的な問い**」を軸にしたカリキュラム・マネジメントが必須。

■ブルーム分類学に基づく思考レベルとスキル

レベル	スキル
創造	部分を組み合わせる新たなものを作り出せる。
評価	基準を使って情報の価値や使いみちを判断できる。他者の気持ちに共感できる。
分析	全体の中の部分を見つけたり、区分けしたりできる。 多角的な視点で公正に情報を扱うことができる。
応用	知識を一つの状況から別の状況に移すことができる。
理解	内容を解釈したり、言い換えしたり、説明したり、推し測ったりする。
記憶	情報を記憶する、情報を思い出す。

「本質的な問い」研修

- ・教員の役割は「ティーチャー」から「ファシリテーター」に。
- ・広島県では“統合的”な研修を実施。今後 5 年間で全教員の受講を目指す。

これまでの研修

カリキュラム
・マネジメント研修

学習評価研修

I C T 活用研修

● ● 研修

● ● 研修

等々…

統合的な研修 <本質的な問い+カリキュラムマネジメント+ルーブリック評価+ I C T >

■ 研修ゴール

プロジェクト型アプローチを通じた「総合的な学習/探究の時間」の設計手法の理解

■ 研修コンセプト

受講者一人一人にクラウドサービス（G Suite）のアカウントを付与し、受講者同士で「主体的・対話的で深い学び」をオンライン上で実現

これからの学びの在り方を体感的に、受講者が自ら他者に伝達できるようになる

■ 研修期間

3 日間

■ 主な内容

（1 日目）これからの学びの在り方，資質・能力を育成する授業デザイン

（2 日目）発問と評価，PBLの視点を取り入れた単元計画の作成

（3 日目）PBLの視点を取り入れた単元計画の作成・検討，
ICTの効果的な活用



新たな公立高等学校入学者選抜制度

【現行】

様式第8号

02

調査書

令和 年 月 日

高等学校長様

中学校長 氏名 _____ 印

記載責任者氏名 _____ 印

課程	本・分校	校	科	令和 年度 第3学年 組	番号	氏名	性別
学習の記録	必修教科	数	国語	①		特別活動の記録（学級活動・生徒会活動・学校行事）	
			社会	②			
			数学	③			
			理科	④			
			音楽	⑤			
	選択教科	数	国語	1年			
			社会	2年			
			数学	3年			
			理科	計			
			音楽	合計			
その他の記録	基礎・基本	健康	1年		スポーツ・文化・ボランティア活動等の記録		
		生活	2年				
		責任	3年				
		創意	計				
		思い					
欠席	学年	1年		総合的な学習の時間の記録			
		2年					
		3年					
		計					
		日数					

備考

欠席欄の廃止

所見欄の廃止
→「自己表現」実施

【改訂案】

様式第8号

05

調査書

令和 年 月 日

高等学校長様

中学校長 氏名 _____

課程	本・分校	校	科	令和 年度 第3学年 組	番号	氏名	性別
学習の記録	必修教科	数	国語	1年		保健体育	技術・家庭
			社会	2年			
			数学	3年			
			理科	計			
			音楽	合計			
	選択教科	数	国語	1年		外国語	
			社会	2年			
			数学	3年			
			理科	計			
			音楽	合計			

特記事項

※特別支援学級等に在籍する生徒で、評定を記述形式で記入している場合に記載する。

新たな公立高等学校入学者選抜制度

保存版

令和5年度入学者選抜から
令和2年度の中学1年生が受検する入学者選抜から

広島県の公立高等学校の 入学者選抜制度が変わります

社会
組織
個人

自己認識 → 自己開示 → 自己表現 → 自己実現

令和2年4月
広島県教育委員会

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力

自己を認識し 自分の人生を選択し 表現することができる力

「自己を認識する力」とは…

自分は何か好きなのか、自分はどういう人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力のことです。

こうした力を身に付けるために

自分自身のことを理解しようとする
ことが大切です。そのためにも、普段から自分自身のことや自分の意見などを大切に、学校や家庭で、友達や先生、家族などに素直に話すことに、積極的に取り組みましょう。

「自分の人生を選択する力」とは…

自分の夢や目標、自分がやりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力のことです。

こうした力を身に付けるために

学校や家庭の様々な場面で、「自分はどうか考えるのか」「自分はどうかしたいのか」などを意識し、「自分で考え・選び・決める」ことを習慣付けていくことが大切です。
自分が出した結論を大切にしながら、様々なことに、積極的に取り組みましょう。

「表現する力」とは…

自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる力のことです。

こうした力を身に付けるために

自分自身のことや自分の意見などを、きちんと相手に伝えることができないと、正しく理解してもらえないことや、誤解を与えてしまうことがあります。
「自分の伝えたいことを相手にきちんと伝えるには、どうしたらよいか」ということを意識しながら、伝える内容や方法、話し方などを工夫しましょう。

新しい入学者選抜制度のポイント

主体的に志望校を選択

各高等学校の学科・コースの特色に応じた入学者選抜の充実を図り、中学生の一層の主体的な学校選択を実現します。

全ての高等学校において、教育目標（スクールポリシー）や育てたい生徒像、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜の実施内容（実施する検査の項目や配点）などを事前に公表します。

受検生は、教育目標や入学者選抜の実施内容などを事前に確認し、自分の進路の希望などに合った学校や学科・コースを、自分で選択し、決定することができます。

調査書を簡素化

調査書に記載する内容を見直しします。

受検生が通う中学校の校長が作成する調査書に記載する内容を、選抜に必要な項目のみとします。

記載項目例

志望校	氏名	性別	学習の記録（評定）
-----	----	----	-----------

入学者選抜に係る期間を短縮

入学者選抜に係る期間を短縮し、各中学校・高等学校の教育の充実を図ります。

入学者選抜に係る期間を短縮することで、各中学校・高等学校において、授業や学校行事の時間を増やすなど、これまで以上に教育活動を充実させることができるようになります。

日程の目安

一次選抜	2月下旬または3月上旬
二次選抜	3月中旬または3月下旬

受検生全員に「自己表現」を実施

受検生全員に自分自身のことを表現する自己表現を実施します。

「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が、どのくらい身に付いているのかをみるため、受検生全員に自己表現を実施します。

自分自身のことや、高等学校に入学した後の目標などについて、自分で選んだ言葉や方法で表現してもらいます。

新しく中学1年生になったみなさんへ

先生や友達に何でも話ことができ、相談することができる安全で安心な学校生活の中で、みなさんは「自己を認識する力」や「自分の人生を選択する力」、「表現する力」を身に付けることができると思います。

みなさんは、自分の夢や目標を大切にしながら、「自分らしい」中学校生活を送ってください。

最新情報はこちらをチェック

広島県 入学者選抜制度

検索

新たな公立高等学校入学者選抜制度



ピョートル氏作成の図を加工

新たな公立高等学校入学者選抜制度

■パブリックコメントの実施

実施期間 令和元年9月18日～10月17日

意見合計 755名 1,545件

	児童生徒	保護者	教員	教育関係職員	その他	記入なし	計
人数	175名	185名	210名	46名	116名	23名	755名
件数	325件	386件	458件	109件	208件	59件	1,545件

多く寄せられた意見

- 自己PR書の作成・提出に関すること（294件）
- 入学者選抜制度の改善の実施時期に関すること（221件）
- 全員面接の実施に関すること（161件）
- 調査書の評定の対象学年に関すること（160件）

新たな公立高等学校入学者選抜制度

■ 実施時期に関する中学生の意見

中学 1 年の時から必死に勉強してきたのに、それが評価されなくなることがショックです。

内申点にビクビクしながら、色々なものを犠牲にしてきたのに、今さら悲しいです。

私は、中学 1 年からの内申点が、受験に大きく左右すると聞いていたので、遊ぶことも我慢して頑張ってきました。

改革されることが分かっていたら、もっとクラブや趣味などにも目を向けて、違った意味での充実した中学 1 年生を過ごせたはずなのに、本当にひどすぎます。

新たな公立高等学校入学者選抜制度

■ 新しい入学者選抜制度のポイント

1.主体的に志望校を選択

全ての高等学校の教育目標や実施内容等を事前公表

2.調査書

「志望校」「氏名」「性別」「学習の記録（評定）」の4点に簡素化

※（「学習の記録（評定）」の比重） 1年：2年：3年 = 1：1：3

3.入学者選抜に係る期間を短縮

「選抜(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)」→「一次・二次選抜」

4.受検生全員に「自己表現」を実施

5.「学力検査」：「調査書」：「自己表現」の比重 = 6：2：2